

授業科目(ナンバリング)	疾病学Ⅱ (NE319)			担当教員	太田一寿・安東由喜雄		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
基礎科目（機能形態学・生物学等）を十分学修したうえで、医療従事者として活動するために不可欠な医学的知識を理解できるようになるとともに、医療チームの一員として適切な医療を行うために、基本的な疾病ごとの概念、臨床症状、治療法、予後について学修し、薬剤師として適切な薬物治療を行うのに必要な各種疾患の成因、病態を部位別・疾患別に理解できるようになる。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1)各種疾患の成因、病態を説明することができる。(2)各種疾患の治療法、特に薬物治療について説明することができる。				・定期試験 ・課題	93% 5%	
情報収集、分析力	各疾患に関する情報を様々な情報源に求め、その信頼性を評価し、適切に引用・要約することができる。				・課題	2%	
コミュニケーション力	なし						
協働・課題解決力	なし						
多様性理解力	なし						
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験の成績を 93%として、筆記試験を行う。また、内容の理解度を深めるために、講義終了後に課題を課すことがあり、その成果について 7%を基準として評価を行う。課題の提出・フィードバックは、ポートフォリオにて行う。定期試験は、基本的な医学用語の理解を前提として、ヒトの各器官・臓器の持つ生理的な役割や異常が生じた際の疾患概要に関する設問を、五者選択方式で出題する							
授業の概要							
講義を主体とし、別途配布するプリントに沿って講義を進める。また、内容の理解度を深めるために、必要に応じて講義中に様々な課題や小テストを課すことがある。 人体の各臓器・器官に生じる疾患（例：クッシング症候群、急性糸球体腎炎等）及びその概要についての修得を主眼として講義を行う。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、112.5 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書・指定図書：「病気がみえる」シリーズ（医療情報科学研究所）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
薬学教育モデルコアカリキュラムの治療学系分野における一般目標、到達目標が達成でき、共用試験・国家試験で合格できる実力を培ってもらいたい。そのための自学学習（特に復習）は必須であり、質問等も大いに歓迎する。 講義プリントは随時配布するので、欠席すると講義内容がまったくわからなくなる恐れがある。できるだけ講義には出席し、やむをえず欠席する場合は翌週までに必ず講義プリントを入手すること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	循環器疾患（1）	動脈硬化症、各種心疾患の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	636-7, 646
2	循環器疾患（2）	不整脈、心原性ショック、高血圧の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	635, 638-9, 646
3	呼吸器疾患	インフルエンザ、肺炎、ぜん息、COPD の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	655-8, 704
4	消化器疾患	食道疾患、胃疾患、腸疾患の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	659-60, 665-6
5	内分泌疾患（1）	甲状腺機能異常症、尿崩症の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	434, 436, 627, 673-6
6	内分泌疾患（2）	副腎機能異常症の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	676
7	代謝性疾患（1）	糖尿病の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	433, 627
8	代謝性疾患（2）	脂質異常症、高尿酸血症などの病態生理（太田）	生化学の関連分野を復習しておくこと	670-1
9	腎・尿路疾患	腎炎、ネフローゼ、尿路疾患の病態生理（太田）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	434-5, 647-50
10	神経・筋疾患（1）	脳疾患、筋疾患の病態生理（安東）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	602, 609-11
11	神経・筋疾患（2）	中枢神経系、精神疾患の病態生理（安東）	機能形態学の関連分野を復習しておくこと	606-8, 612-3, 616
12	感染症	敗血症、溶連菌感染症、その他感染症の病態生理（太田）	微生物学の復習をしておくこと	692-3, 695, 697, 701
13	悪性腫瘍（1）	総論（悪性腫瘍の分類、発がん・悪性化の機序、腫瘍マーカーなど）（太田）	プリントの内容を復習すること	712-4
14	悪性腫瘍（2）	各論1（胃癌、大腸癌、肝癌、肺癌）（太田）	プリントの内容を復習すること	714, 722-3
15	悪性腫瘍（3）	各論2（乳癌、子宮癌、その他）（太田）	プリントの内容を復習すること	714, 725, 727
16	定期試験			

注) 上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、シラバス巻末のコアカリ SB0 番号／項目対応表を参照して下さい。